

根本博学長補佐・教授は「最近の日本経済の動向」と題し講演しました。根本教授は景気の総括判断として、「堅調に回復している」と述べ、その総合的な判断の根拠として GDP 速報で今年四月から六月期の実質 GDP が前期比 0.3% (年率換算 1.3%)

景気は堅調に回復

根本教授 日本経済の動向を分析



増加している。日銀短観における大企業製造業の業況判断指数がバブル崩壊後最高になった。景気動向指数の一致指数が三カ月連続で 50% を上回るなど改善している。景気ウォッチャー調査では一時的に低下の

四つの数字を挙げました。景気の先行きについては「国内の民間需要が着実に増加しており、景気回復が続くと見込まれる。原油価格の動向に留意する必要がある」と述べました。

今回の景気回復の特徴、要因では、設備投資の回復、デジタル家電の需要、中国市場における特需などを説明しました。最後に長期的課題として、人口減少経済への対応など七項目を指摘しました。

経営情報学部公開講座 (9月25日、サテライト教室)

塚本迪三教授は「わが国『格付け』の現状」をテーマに、一般事業法人における格付けの視点について解説しました。塚本教授は、

企業戦略に活用を

塚本教授「格付け」の現状を解説



格付けの戦略的活用策として、国際市場における客観的信用力の認定、資本市場からの資金調達、企業イメージの向上、銀行借入等取引条件の改善などを挙げました。

格付けへの関心の高まりと背景については、バブル崩壊後の長期不況と山一證券など大型倒産の続出、企業経営全般における透明性・客観的信用力の重要性

などを掲げたうえで、債券格付けの意味や定義、歴史などについてグラフや表を使って分かりやすく説明しました。

格付けの向上策としては、収益力の改善、資源の高採算部門への集中投入、不採算部門の整理合理化、合理化によるコスト削減、資本の増強と債務の削減、バランスシートのスリム化、不良資産、含み損の整理、経営計画・戦略の明確化、コーポレート・ガバナンスの確立、積極的な情報開示を示しました。

東高校2回戦敗退

金沢東高校野球部は九月十一日から開催された秋の北信越石川県大会にシールド校として出場しました。初戦「写真」は鶴来を92で破ったものの、2回戦

では辰巳丘に2-9で敗れました。三年生が抜けて新チームとなった金沢東高校は金沢地区のシールド校大会でブロック優勝してシールド権を得ましたが、県大会では本調子を出せませんでした。

演歌や童謡で楽しく 吹奏楽部が朱鷺の苑慰問

日ごろの練習の成果をお年寄りの前で披露する吹奏楽部員 = 第二金沢朱鷺の苑



金沢学院大学・短期大学の吹奏楽部員は9月20日、金沢市上辰巳町の老人福祉施設「第二金沢朱鷺の苑」を慰問し、懐かしい演歌や童謡を披露しました。まず、ラジオ体操の音楽を演奏して緊張をほぐしたあと、童謡やなつメロの一節を演奏しながらフルート、サクソなどの楽器を紹介しました。続いて「津軽海峡冬景色」「与作」などの演歌を披露すると、一緒に口ずさむお年寄りもいました。

職員が華麗に踊り流し

九月二十五日に犀川緑地河川敷で開かれた犀川・犀星まつりの踊り流しに、本学職員八人が北國新聞グループの一員として参加、いね金沢「百万石音頭」など三曲を華麗に踊りました。終了後、飛田秀一理事長、石田寛人学長からねぎらいを受けました「写真」。



契約社会の便利さの裏に潜む怖さを学ぶ

短大ブレゼミナールB 金沢学院短期大学のブレゼミナールBは九月二十八日、4号館講堂で開かれました。司法書士の皆川容徳氏が「カード、サラ金、悪徳商法等で泣かないために」と題して講演し、一年生百五十人は契約社会の便利さの裏に潜む落とし穴について学びました。

皆川氏は、気軽にサラ金から借金したことで陥った多重債務が人格崩壊を招き、自殺や犯罪者に追い込まれた事例を紹介するなど、「約束」に拘束される契約社会の厳しさを紹介しました。そのうえで、「自分のために生きるのはいいが、そのために他人が不幸になることに手を出してはいけない」と、生きていくための最低限のルールを強調しました。

発行・広報室